

健康安全・兵庫

交通マナーを考える

平成二六年度がスタートしました。人事異動により新たな体制での出発となりますが、今年度も職員皆さんがそれぞれ労働災害の未然防止に尽力されるようお願いいたします。

さて、ここ数年、交通事故による災害が多い傾向にあることは皆さんご承知のことと思いますが、交通事故は、法令違反により起こりえますが、マナーによるものも表に出ない原因として挙げられるのではないのでしょうか。

ここ数年間で私の感じた交通マナーや出会ったヒヤリについてご紹介したいと思います。

■車間距離

車間距離については、道路交通法に、前の車両に追突しないように必要な距離を保つとありますが、自分の車が余裕を持って止まることができれば後ろの車から追突されるのを防ぐこともできます。また、車の後ろにピタリ付かれて走るのは気持ちのいいものではありません。少々割り込まれても構わないという気持ちで車間距離を保ち余裕のある運転に心がけましょう。

■ライトの点灯

薄暮時から、かなり薄暗くなってもライトをつけずに走る車が多いですね。その運転手さんからは見えているのかもしれないませんが、対向車などから見過ごされてしまうことが少なくありません。その結果、速度や距離を見誤ったことによる衝突などの事故を招くこととなります。相手から自分の存在を早めに認識してもらうために、早めのライトの点灯に心がけましょう。

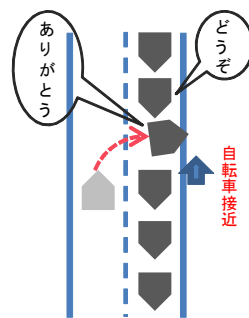


■青信号・即右折

右折待ちの車が、青信号に変わった途端に右折する姿をよく見かけます。随分急いでいるんですね。歩行者がいるかもしれません。そして、思った以上に直進車はすぐにやってくる。片側一車線で、右折する自分の車で渋滞するのを嫌うがために、ということもあるかもしれません。見ていて印象はかなり悪いです。

■サンキュー事故

渋滞時など、直進車が右折車に道を譲る際にすり抜ける二輪車と衝突する事故をサンキュー事故といいます。自分の後ろから迫ってくる自転車にも要注意です。暗くなると見落としがちです。右側の店などに右折で入るときなど、ありがとうと



■植え込み

都市部では、車道と歩道の間植え込みがあることが多いものです。ここでは、小学生低学年以下の子供が運転する自転車に要注意です。植え込みとほぼ同程度の高さくらいしかなく、左折時、乗用車タイプの車では運転席の目線が低く見落としがちです。特に、親の後を追っている子供は、置いていかれないように一生懸命で、車のことを忘れてしまっているかもしれません。車が待つのが常識ですが、見えなければ見落とします。意外とこういうことはあります。

■ハイビーム

一般道でライトを上向きにして走る車に出会います。最近、高速道路では前に車がいなければ上向きにして走りましょうといった指導もされますが、一般道ではひっきりなしに対向車

がありますので、迷惑にならないように下向きで走りましょう。対向車は、目がくらんで歩行者に気づくのが遅れます。

■方向指示器のタイミング

最近、どこに行っても方向指示器を出すタイミングが遅いようです。ひどいときは出さない車にも出会います。右折専用レーン以外では、いきなり出されると後ろの車は大迷惑です。

いかがでしたか。ヒヤリとした体験は忘れませんが、ヒヤリの経験は無いに越したことはありません。ルールとマナー。規則の遵守は自分に厳しく、他人に優しいマナーの向上で事故を起こさない、起こさせない。今年度も災害のない明るい職場を築きましょう。(署長)

思いやりの心

「思いやり」を広辞苑で調べてみると、「相手の立場や気持ちを理解しようとする心」「想像」等とあります。思いやりは持つとうとして持てるものではなく、なにかを継続してやったことの結果としてついてくるものだと思います。

「思いやり」を持つためには、相手を思うことができる経験と想像力が大事です。また、皆でお互いに汗を流し、苦勞をして、苦樂を共にする中から、思いやりは生まれてくると思います。私達が生きて生活していく上で人と関わる時の基本的なことです。意識して自分以外の人を「思いやる心」を持つことで、未然に防げる事柄は多いのではないのでしょうか。

今年度も「思いやりの心」で、皆で声を掛けながら無災害を継続しましょう。(K・I)



この花なあに！